

て備萬代之美談昏黒事をはつてをのく退出此事中御門左大臣殿の御たづねによりてぶぎやうにん經房朝臣かきてたてまつりける也。

〔玉海〕承安三年三月廿二日甲寅、或人云、明後日別當成親可鷄合云々。

〔百練抄^{高倉}〕承安四年二月五日、行幸法住寺殿^{上皇所}六七日御逗留有鬪鷄呪師猿樂等事。

〔義經記^七〕へいせんじ御見物の事

辨慶ばかりまかり候はんとてをひとつてひとつかけてたゞひとり行けるが、とがしが城をみれば、三月三日の事なれば、かたはらにまり小弓のあそび、かたはらに鳥あわせ、又くはんげんさかもりに打みえて、酒にゑひたる所もあり。

〔明月記〕建久九年二月十九日、一日於鳥羽殿先競馬、次俄鳥合^{取_案近邊}左右分方云々、左方^{大納言}

負、仍爲負態渡御久我、事了、又還御鳥羽、又鳥合右方負、爲其負態、今日又御幸云々、無才貫首總不覺、鳴才貫首又現尾籠、木工勾勘不及左右、職事奉行總暗夜歎、可悲之世也。

〔吾妻鏡^{十八}〕建永二年^{○承元年}三月三日戊寅、於北御壺有鷄鬪會、時房朝臣親廣朝光、義盛、遠元、景盛、

常秀、常盛、義村、宗政等爲其衆云云。

〔吾妻鏡^{三十八}〕寛元五年^{○寶治元年}三月三日丙辰、營中有鬪鷄會也、此間若狹前司等聊喧嘩。

〔辨内侍日記^上〕二十七日^{○建長元年}二月は七社のほうへいなり、略^{○中}三日の御鳥あはせに、ことしは女

房のも合せらるべしとき、しかば、わかき女房たち、心つくしてよきとりども尋られしに、宮内卿のすけどのは、爲教の中將がはりまといふ鳥をいださんなどぞありし、萬里小路大納言^{○公}

のまいらせられたるあかとり、いしとさかあるかけ、いろもうつくしきをたまはりて、あきつぼねにほこらかしてをきたるを、もりありといふ六位が、そのとりきとまいらせよといふ、かまへてとりなどにあはせらるまじきよし、よくくいひてまいらせつとばかりありて、かためは